

マレーシア少年柔道遠征紀行

大分県中津市本耶馬溪町
少年柔道クラブ青洞館
事務局長 土田 直

私たちは、中津市本耶馬溪町の少年柔道クラブ『青洞館』の21人の団体です。マレーシアの少年柔道クラブへの遠征を、部員11人と指導者、引率保護者10人で、夏休み期間中の7月28日から8月2日の6日間の日程で行いました。その時の状況をお知らせします。

青洞館は、平成12年4月1日に中学校の柔道場を借り、部員24人（現在は40人）・指導者5人で発足しました。この柔道場は、雨漏りはするし、畳はすき間だらけで、けがの心配もあったため、関係者に依頼して、14年4月に木造の武道館を新築していただきました。

けいこは、週3回（月・水・土）午後6時15分から9時までで、青少年の健全育成を目的に、『大きな声で挨拶をし、我慢強く頑張る、立派な人になります』を合言葉に練習に励んでいます。

その指導方針の『立派な人』になるための一つに、国際的な人間の養成も必要と考えています。

そんな折、16年4月から、マレーシア日本人学校に教師として赴任していた、柔道の友人である氏が、6月10日に柔道場を開いたと聞き、すぐにお祝いの言葉を贈ったところ、「こちらは、気候も良いし、食べ物もおいしいですよ。遊びに来ませんか」と誘いを受けました。「それなら青洞館の海外遠征として計画してみましょう」ということになりました。旅行社の知人に調査を依頼したところ、「格安で行ける、物価が日本の3分の1だ」と知り、計画を実行に移すことになりました。

7月28日午前7時15分、貸し切りバスで中津市を出発し、福岡空港・午前11時30分発のマレーシア航空MH083便に乗り、クアラルンプール国際空港に午後4時55分に到着しました。

子どもたちは、海外旅行は初めての者ばかりでしたが、落ち着いていました。「柔道でも、何でも同じだ、物おじせず、胸を張って行動しろ、腰は引くな！」と言っていたのが効いたのかもしれない。

当日は、まず今後3日間宿泊するホテルにチェックインしました。ホテルは、日本で言えば、東京の新宿通り、クアラルンプールのピンタン通りにある“ロイヤル・ピンタン・ホテル”で、四ツ星の豪華ホテルでした。夕食は、バイキング式のマレー料理のお店で、マレーシア・ショーを見ながら

いただきました。とてもおいしいものでした。

7月29日、午前中は市内観光で、王宮・天后宮・戦争記念館・モスク・スリマハマリアン寺院・KLCC公園を回りました。

午後は、ホテルのプールでトレーニングをし、プール10周と競泳を行いました。これで腹を空かし、夕食は、マレーシア柔道協会のS氏（鹿児島出身・8段）のお世話で、同協会や大分県人会の方々から“中華料理のお店ハッカ”で親睦会をしていただきました。

珍しい果物や料理をたくさん食べ、子どもたちも満足の笑顔をしていました。

ホテルへの帰り道に、クアラルンプールでもっとも有名なツインタワーの夜景鑑賞に行きました。あまりの美しさに言葉もありません。



新婚旅行はお薦めスポットです。

7月30日は、一番の目的である柔道の試合の当日になりました。

午前中は市内観光で、KLタワー・バタフライガーデン・レイクガーデンを見学しました。KLタワーの高さは421メートルで、東京タワーよりも高く世界で4番目の通信タワーと言われています。そこからの眺めは素晴らしく、森が多く、クアラルンプールが緑の都と言われている意味が良く分かりました。

午後はホテルで休憩をして、午後4時から、柔道試合の会場であるバングサ柔道場に向いました。

バングサ柔道クラブは、クアラルンプール市内にある3つの柔道クラブの一つで、部員20人くらい、畳50枚のこぢんまりとした道場で、午後5時からけいこを開始しました。



友人の 氏から、本日の柔道の指導を依頼されたので、私の指導で始めました。引き付け・えび・逆えび・前転・後転・側転など、青洞館の部員が素早くきれいにできるものですから、バングサの先生方はびっくりしていました。打ち込みや投げ込みが終わってから、いよいよ親善試合となりました。

11人制の団体戦で、低学年から開始し、先鋒、二人目と 大外刈り で投げられました。三人目から九人目まで、大外刈り・体落とし・寝技 と続けて一本勝ち、副将が引き分け、大将が、 けさ固め で抑えられて負けました。負け

はしましたが小学6年生の軽量が、中学2年生によく立向っていきました。試合前に、「引き分けはするな。負けてもいいから、胸を張ってどんどん攻めてこい」と指示していた通りになりました。

勝敗は、7勝3敗1分で、青洞館の勝ちとなりました。

けいこが終了しての、お土産の交換、交流会では、「大変良いけいこができた。子どもたちの大きな刺激になった」と喜んでもらえて、遠征に来て本当によかったとうれしくなりました。



7月31日、午前7時にホテルをチェックアウトして、クアラルンプール空港国内線で、午前10時にペナン空港に到着し、ホテルへ直行しました。ホテルは、前日の“ロイヤル・ビンタン・ホテル”と同じく、四ツ星の“シティ・ビュー・ホテル”で、子どもたちは、本日のペナン柔道クラブとの試合を控え、ホテルのプールで遊んだり、休憩をとったりしました。

午後3時、ホテルを出発し、ペナン・スポーツセンター柔道場へ行き、そこで行われていた『ペナン州ジュニア柔道選手権大会』を観戦しました。

午後5時、大会が終わり、正規の一面柔道場が空いたので、青洞館だけの準備運動を始めました。すると試合が終わった100人ほどの選手が私たちの柔道を食い入るように見ており、言葉はまったく分からないはずなのに真剣そのもので、柔道に対する熱意を痛いほど感じました。

午後6時にペナン柔道クラブの子どもたちが集まってきて、けいこを始めました。部員は、80人ほどで中学生や高校生が多いようでした。ペナン柔道クラブとは、試合を先にせず自由練習の後にすることにしました。

11人制の団体戦で、低学年から開始し、先鋒は 大外刈り で、2回の技ありを取られ負けましたが、二人目は 大外刈り で一本を取り返しました。三人目は、 けさ固め で一本負け、四人目は、 体落し で一本勝ち、五人目は、 けさ固め で一本負けと一進一退が続きましたが、六人目からは、 けさ固め 大外刈り 体落し 背負投 と一本勝ちして、副将が けさ固め で負けたが、大将が けさ固め で一本勝ちして、結果は、7勝4敗の勝利になりました。

試合が終わって、子どもたちは満足顔で一回り大きくなったように感じたのは、私一人ではなかったと思います。

試合の後、友人の 氏を相手に、技の講習会で、 背負投 大外刈り 支釣込足 の実技指導を行いました。ペナンの子どもたちは、私の説明を食い入るように見聞きしており、柔道に対する姿勢の良さを感じました。

柔道の指導や交流試合は今日で終わり、ホテルに帰っての回転レストランでの

夕食は、ほっとしてビールやワインのうまいことは言葉に言い表せません。

8月1日、午前10時にホテルをチェックアウトして、ペナン島の観光で、コーンウオリス砦・植物園・ペナンヒルをまわりました。

東洋の真珠、至福のリゾート地と言われるだけあって、あまりの美しさにカメラのシャッターを切るのに大忙しでした。

夕方まで、ショッピングをして、ペナン空港からクアラルンプール空港に行き、同空港の国際線で、8月2日午前8時に福岡空港に帰りました。このペナンからの飛行機の中で、T子が感激の涙を流しました。

それで、T子が「私が得たもの」との感想文を書きましたので、原文のままで紹介します。

「私が得たもの」

私は、柔道の遠征でマレーシアに行きました。今回の遠征で、私は今までの受身の柔道から、自分からかけていく攻めの柔道に変えたいと思っていました。

クアラルンプールのバングサ柔道クラブで、私と同じ様な受身の柔道をする相手と試合をしました。私は、一心に相手より先に技をかけ続けましたが、結果は引き分けでした。でも私は、この試合で自分の心の中の何かが動き出したような気がしました。

ペナンの柔道クラブでは、練習中に右足の親指を捻挫しました。試合の直前に土田先生から「気持ちで負けるな。思いっきり戦って来い」とアドバイスを受けました。最初は足をかばっていましたが、相手に有効を取られて「こんな見っとも無い。負け方はしたくない」との思いが、私を動かしました。私は無我夢中で相手に技をかけていきました。先生が肩を脱臼しても試合を続けたと話していたことが、私にも少しわかったような気がしました。

この遠征を通じて多くのことを学びました。先生の「T子。気持ちじゃ」の言葉が、私の教訓です。

帰りの飛行機の中から見た夜景や朝日から、私は何か大きなものを得た気がしました。

この海外遠征を、計画・実行して、私もいろんなものを得ました。一番は、柔道を今日まで続けていて本当に良かったと思ったことですが、子どもたちとの信頼が、今まで以上に深まったことなど、数えたら切りがないほど多くのものを得ました。

マレーシアは、気温は高いけれどもカラッとしていて、とてもすごし易かつ

たのですが、大分に帰ってからの蒸し暑さには、ほとほとまいってしまいました。帰国してから、子どもたちには感想文を書かせましたが、ほとんどの子が「良かった。楽しかった。良い経験が出来た。また行きたい」と好評ばかりで、一安心をしました。

今回の国際交流、練習会の機会を与えて下さった、マレーシアの柔道関係者や、青洞館の関係者、私の職場の方々に深く感謝すると共に、これを機会に、子どもたちが世界に目を向けたグローバルな人間に育ってくれることを願っております。



(ペナン柔道クラブで記念写真)